

幼稚園令の讀み方（承前）

— 講演大要筆記 —

倉 橋 惣 三

二、保育項目に關する事項

次に所謂保育項目に關する問題に移ります。保育項目は令の施行規則によりますと遊戲、唱歌、觀察談話、手技等とあつて五つの事がきめられてあります。保育項目を斯様に定めるつていふことに付いて論があるのです。幼稚園から保育項目をとつてしまへと云ふ人があり、これと全然反對にもつと細かに決めなければならぬと云ふ人があります。矛盾の様に見えますが、何處から出るかといふに前者は新教育主義から、後者は實際からの論であります。何をしてもいか分らぬ、或は自分では分つて居るとしても始めて幼稚園教育にたずさわる人のためには相當に詳しく示さなければ分らぬではないか。進歩主義、自由主義は氣持ちよい話であるが實際として左うはいかぬと後者は云ふのです。今日の幼稚園は随分いろいろのがある。幼稚園に於て殆んど、何もしないといふ様のもある、朝からふら／＼して居ると言つて心配性の人が見て案じたりします。そこで、細い規定を設けなければいかんといふのです。

第三の議論はこの二者を妥協したといふ譯ではありませんが、幼稚園ではそんなに細かに規定しな

くてもよい、何か大體の寄り所だけがある。其の點に於いて我國の五つばかりの規定は大傑作であるといふのです。小學校が各課程の時間數に至るまで規定してあるに對して、大體主義を謳歌する者もあります。この三つの考へは夫々の感ずる立場から偶然に起つて居るので、別に比較論究する必要はありませんが、新令によつて此の問題を如何に取扱ふべきか、その點を如何にすれば良いかは大切な問題として、我々の前に置かれてあるのであります。一體教育令といふものに就て、外國の實際を見ますと、殊にイギリス・アメリカのは書き方も異つてゐるのですが、我が國の幼稚園令は法律的に扱はれて居るから要點だけが擧げられて説明的ではない。従つて一般の法規と形式が似て居りますのに反して、外國のは説明的であります。更に別に註釋を要するといふ風の書き方ではない。従つて其の中の言葉はいち／＼法令的嚴格さを持ちません。幼兒は遊戲が好きだからさせたら良いではないかといふ風で、しなくてはならぬ、是非斯々せよとは書いてありません。我國のは法律文句できちんとして居るから究屈に響き過ぎて困つて來ます。尙、近來の外國の傾向を申しますと幼稚園の教育は生活教育であるから時間割によつて支配されるものではない。學校の教科を受けるために幼稚園に來るのではない。生活其の者を豊富にして行かうとするのである。生活の中には短い單なる言葉では言ひ出せぬ重要なものが多くある。それを幾つかの言葉に規定することは不可能であるといふ風です。一例を申し上げますと、コロンビアでミス・ヒルが主として唱へて居るアクティビティー、カリグラムは幼稚園に來て其の中に生活する

ことを尊重する立場から出て居ります。幼稚園に来るのは遊戯・唱歌をしに来る即ち極端にいへばアクティビティーではなくて課業を受けに来る。課業を受けるためには室、机、庭、設備の整頓も必要になる。課業が主で手段として幼稚園の生活が必要になるといふ様な從來の考へ方に對して、アクティビティー、カリグラムは反對を述べて居ります。幼稚園に来ることが第一の目的です。家庭にあるといふことは寝るために、或は讀書のためにあるでせうか。家庭に在るその事が第一義であります様に、幼稚園も、そこに來て生活することを以て第一義とするのであります。その中で閑があれば他の目的のために活動をするので、幼稚園は幼兒が其れ等の仕事をするために來るのでは絶對にないとの主張です。それで實際生活を本體として幼稚園の一日をきめて行かうとします。私達は昔、モンテッソーリの本の中の繪で幼兒がスूपを運んで居るのを見て感心したのです。これは作法の訓練をして居るに違ひないと考へてやうやく得心したものでした。が、それは作法の訓練ではないのです。友達が食事をして居るからする丈けのことではありませんか。私がコロンビアに在りました時に丁度朝の靜かな時間に幼稚園に行つて見ると、幼兒達が園内の用事をして居りました。『やつてますね』つて挨拶致しますと、『つまり、これを原則的に行ふのに何うしたら良いかを考へてる所です』とヒル女史が答へられました。

斯んな傾向が今日の新しい傾向としますと、幼稚園の項目は『…等トス』では變なものになる。項目をきちんときめることは現在の考へには何となく古くさう考へられるから、もつと思ひ切つた言ひ方は

なからうかと思はざるを得ない譯です。ところで、私は大體斯んな風に考へて居ます。即ち幼稚園の生活は幼兒の遊びの生活を本體として實際生活と藝術生活を子供の發達に適應してさせてゆけばよいではないかといふのです。ところが、大抵の人はこれでは物足りないので、施行規則の第二に見る通りになつた譯でせう。

斯様に決するに先立ち、文部省は全國に如何なる保育項目を行つて居るかを問ひ合しました。何をし居るかと問はれると困ることなか／＼纏つて書けない。人形の着物も洗はせる。草も取らせると云ふ様な事を書き表はすことは出來ぬ。しかし兎に角現在では我國の多くの幼稚園でしてゐることが、遊戲、唱歌、談話、手技の四項目に限定されては居ない。もつと豊富に行はれてゐることが分りましたので『…等トス』の『等』の字が入られたのであらうかとも考へられます。舊規定では四つ以外の事はよけいな事として扱はれて來たのです。人形芝居をする、活動寫眞をする。嚴格なる幼兒教育者はこれを以て脱線と思つたかも知れない。即ち『等』とは四つ以外を行ひ得ることを表はしたものであります。ですから『等』の字は我々の活用すべきものであります。

○

第二の點は同じ調査によつて、幼稚園は色んな事をやつて居るといふことが今更の様に當局に分りました。如何なる事かと調べたところ、それは觀察でありました。觀察に付きましては前から一般の論も

あつたことで、其の趨勢を眺めますと二潮流を認められます。一は、日本人は理科的思想が甚だ少ない、何れかといへば藝術的であつて理科的教養が少ない。といふことが、教育全體、殊に兒童教育に於て、十五六年前に盛に唱へられました。その後中等教育では理科が非常に發達しました。實驗室が設けられる、補助費は出されるといふ風に。小學校に於ても亦其の考へを深めました。幼兒教育にも自然科學、自然觀察の項目を加へる必要があるといふので主として理科教育の立場からこの議論が出ます。今一つの論は、それよりはずつと後に幼稚園教育の中に起つたのであります。近來の教育は幼兒をして自ら發達し、自ら作らせる傾向、即ち創作的であります。この主義ばかりではいけないといふ二つの考慮がある。其の一は、一昨日述べました訓練の上から矢張り外からは善い事はさせ、悪いことはよさせる所の働きが大切であるといふので、其の二は創作の他に外界に卽した忠實な生活もさせなければならぬ。人間生活には二面がある。外から受けとる——小學校的にいへば學び來る——生活と、内から生み出す生活とである。因つて外界を受け取る教育も與へなければならぬ。といふ所から出る議論であります。其處で、遊戲、談話、唱歌、手技の外にこれに必要な項目を加へなければならぬ。從來の項目のものは餘程創造的に屬するところが多いのです。斯う云ふ意味から觀察の言葉が加ることになりました。ところが、こゝに觀察が新しく加へられやうとした時に、この言葉の意味を如何に解釋すべきか。若し誤り解する時は、現に、心配して居られる人は施行規則の第一條の中の『…會得シ難キ事項ヲ授ケ又ハ過

度ノ業ヲナサシムルコトヲ得ス」この文の裏許り考へて、授けてはいけぬのか、或事項を授けてはいけぬのかと迷つてゐる人もあるのです。小學校では授けるといふ事は既に是認されて居りますが、授けるといふことが始めから許されて居ない幼稚園ではこれを何う解釋すればよいか、この言葉が若し誤り解されたなら餘程幼稚園の生活の根本に關係して來ます。それで多くの人がこの解釋の如何を心配するのです。

最も新しい意味に於て、從來の觀察が持つた意味を離れて、幼稚園の觀察を良く書いてあるのが萬國幼稚園協會の著した「幼稚園保育要目」で、新しい傾向を代表して居ります。其の扱つた主旨は製作、藝術・言語・文學・遊戲とゲーム・音樂の要目を説く前に初めの方に幼稚園に取り入れ來るべき主材として述べられてあります。その内容は大別しますと生活行事と自然科學とで、生活行事とは此の人生、即ち家庭とか、幼稚園とか社會で營む人間生活に屬する凡べての問題をくるめて名付けたもの、自然科學とは自然研究を盡く含むものであります。幼稚園に取り入れ來べき主材は人間社會の生活事實と自然界の事實とであるべきです。ここに一寸大切な事があるのです。この主材は幼稚園で取扱ふべきものを舉げたもので、幼稚園がこれをするかしないかは問題にして居りません。小學校の教科、教材とは違ふのであります。保育要目の中で見ます製作・藝術・言語等は幼兒の爲る仕事の名であつて、假りに幼稚園の時間割を作らうとすれば何時——製作・何時——音樂・何時——ゲームと出來得るが、これに對

して生活行事が其の形式に入るものではない。この形式は萬國幼稚園協會が餘程考へてありまして、幼稚園に取り扱はれる内容を主材として先に決めて居るわけであります。萬國幼稚園協會できめて居るのは製作・藝術・言語・文學・遊戲とゲーム・音樂でありますから一般的言葉を使つてあります。我國では學校教科で用ひられて居る言葉ですから主材は教材じみて來ます。それならば、幼稚園でする仕事といふ意味から離れて居るかといふにそうではない。上述の要目の中でも主材として取扱ふべきものであります。時には、その自然研究、生活行事を特に主材として子供に與へるためにとる仕事が必要であります。たとへばドイツの或る幼稚園では午後の時間は殆んど散歩になつて居る、散歩は何う考へても今まで考へた仕事と並ぶべきものでない、當り前のことで普通生活に入つて居るものを持ち出した感があり、特に時間を設けなくとも、一寸した時間に爲される。特に課業の形でさせなくとも目的は達せられると見られますが、矢張り其の意義を徹底させるやり方には特に時間を設けるのであります。特別な目的の時間を取るのには便利とも云へる。即ち製作・唱歌・談話・遊戲中凡べての仕事の中に生活行事、自然研究はなされますが、純粹にこれだけを主とするための特別の時間の必要も起るのであります。これを我國の保育項目に持ち來つて考へますに心附かるゝことの第一は遊戲・唱歌・談話・手技は幼稚園で幼兒のなす生活形式の名であります。遊戲といふ語は目的を表はしては居ない。如何なる効果を持ち來るかとは別問題の生活形式であります。唱歌・談話・手技盡く然りであります。其の中にいろいろ目的も持

たれては居りますが、兎に角形式に對する名であります。これに對して觀察は果してこれ等と並ぶべきものでせうか。或る一定の生活形式の名でせうか。生活形式よりも内容或は目的を表はす名であります。從來の小學校や幼稚園の古いところで使つた觀察は生活形式につけたものでしたが、先入見を除き、常識的には、觀察といふ語は本來が動詞であります。觀察する即ち、花を観る、虫を、電車を、観る、それ等の個々物を觀て居る時の働きの言葉であります。遊戲・唱歌は特に遊戲らしく、唱歌らしく爲さなければ出來ません、それと觀察とは少し違ふと見られる。生活形式を改める必要はない。外界を忠實に受け取つて行くのなれば手技の中でも、唱歌の中でも觀察は出來ます。唱歌の中で手技をすれば二つの生活形式をすることになりますが、觀察は生活目的であります。生活活動の名を表はすものだといへます。その意味で考へるとスラ／＼と五項目が並んで居るのが變な感じがします。異種類がまじつた様に感じます。これを實際問題に持つて來ますと、觀察は項目としては他の四項目と並んで居りますが、敢へて獨立の生活形式として特殊的に取扱はなくとも出來るといへる、外から見ても今何をして居るかといふことが分る性質が他の四項目にはあります。觀察はそれとは違ひ、何時して居るか、今から觀察をしまさなくてはよいのであります。凡ゆる機會を利用することを怠つて居ないならば特に時間は必ずしもなくてよい。

他の生活形式中で觀察し得るといふのは幼兒の生活は活動によつて觀察するものであるからであります。

す。觀察は観て察するとあり、感覺を用ひてするのが大人の觀察であります。幼児の場合では必ず活動による。幼児教育は活動によるべしとは前から言はれて居ります。フレーベル以來誰でも論者は一樣に唱へる事であります。然しながら活動による教育とは何でありませう。活動によつて發表、創作することだけでせうか。活動とは要するに筋肉の變化であるから、吾々大人ならば想像を馳せて樂しむでありませうが、幼児は直ぐに筋肉の活動に移ります。頭の中で組み立てゝ後作るのではない。幼児は決して案が出来たからどれ作つて見ようつていふようなことはない、作りながら考へて行くのが特徴であります。吾々大人仲間になつてやつて見なければ考へられぬ人も稀にはあります。今私は外界を受取るのもこの筋肉活動によることを言はうとして居るのですが、極端な例をいひますと、人が踊つて居る。見て御出でと言つても子供は踊り出す。歌ひ出す。何故かといふに耳、運動感覺、運動筋肉活動を以て見聞くのであります。幼児といへども靜かに、聞くこともありますが、活動による方が原則的であります。よつて觀察は外界を持ち來る活動目的だから、色んな生活形式中にも出來るわけであります。

今度は別な方向から考へて見ます。從來の創作、發表主義の教育は只幼児の精神内容から産み出させることにむだに骨折つたのであります。ゑさを與へることが足りなかつたのです。これではいかぬと考へた時に觀察を幼稚園の特別な任務としてあげたのです。今までの幼稚園は觀察しようとして居ない。相變らずの室の壁・幕、實に鈍いものです。何かの拍子でみゝすが見つかる、ふとして小鳥が迷ひ込む

と年に一度の觀察が出来やうといふものです。これに對して受け取り得る機會を幼稚園が提出しなければならぬとするのが觀察が特に設けられた所以であります。この要求のためには幼稚園に子供の受け取り得るものが具はりさへすればよい。考へる餘地のない程何でもよい。不適當な物を持ち來る筈はないとして。緣日からコマネズミを持ち來るもよからうし、鳥を飼ふも、花壇を作るも結構です、獨逸のフレーベル・ベスタロツチ・ハウスの戰前のこの方面の仕事は實に豊富でした。私の參りました時は戰後で金がないから出來ないと云つてたのですけれども、戰前には牛・羊・豚を飼ひ、牛乳をしぼつたりして居たものでした。但し觀察の時間は特定してありませんでした。觀察どころではないのです。子供は豚が飼つてあるので豚遊びをする。牛小屋作りもする。農夫あそびもするといふ工合でした。幼稚園が外界に接し得る機會を豊富にすればよいのです。幼稚園内に持たれぬものは出掛けて行けばよい。園外保育であります。家庭教育に熱心な人は子供を机にしばらく付け、時に參考として外に連れ出すのを見受けますが、早教で有名なストーナ婦人は子供には教へずしてしきりに外に散歩に連れ出たそうです。外に連れ出す即ち園外保育となりますと、このための特定の時間をとる。保育時間内に特設する必要が起ります。掛圖を、顯微鏡をといふ學理的理科教授とは違ひます。重要な目的は外界に對する興味を増進すると、起すことにあるのです。興味は多少食べさせてやらなければならぬ。興味を感じる本能を持つらしいでは興味は成長して來ない。今日の幼兒の興味は食はす嫌ひの感がある。食べさせて見ないから食

はす嫌ひになるのです。都會の子供はあの炎天下の街路に働く撒水夫に興味を感じない様です。人間現象に就いては今日興味を持たなく見えるのであります。或る人は幼兒は人間生活の意味に興味を持たぬといひますが、先づ少しづつ興へることを努めなければならぬ。先生が食べたことがないから子供まで食はず嫌ひにしてしまふ。先づ経験させてみなければなりません。経験は知識、概念ではありません、必ずしも花や、蛙を、分解、解剖する理解的知識でありません。その経験を主體にして、それを豊富に正確にあらしめる様に導けばよいのです。斯んな事で大體觀察は何んな風なものか、何んなではないかとお分りかと思ひます。さて觀察を行ふについて如何なる計畫を立てゝゆくか。觀察の目的本來の性質は大體前述でよいとして計畫としては何うするかの問題であります。先づ第一に考へる問題は何を觀察させるか、即ち觀察の内容でありますが、昨日考へました様に子供が自然に觸れてくるものでよいとするならばそれでよい。偶然の結果に任せるといふならばそれでよい。然し偶然のまゝに任すならば全體として甚だ内容的には種類少くなる。田舎のやうに自然物の多い所は良いが、都會では偶然の結果に信頼するわけにはいかぬ。貧弱ならずとしても内容が偏するかも知れない。今日の都會幼稚園では子供の觀察内容が少いことから提出されたのですから計畫的に立案しなければなりません。一は自然物を計畫立てるとすれば自然現象を興へるにつき、一種の學問的立場からこの種の次にはこれ、といふ式に知識上に偏することがないのが一の立場となります。小學校の理科教科書が大體斯様になつて居ります。今一

つの立場は全然それにはよらず、幼児の生活に近いものを選ぶものであります。其の幼児の住つて居る所では多少偏した自然になつても仕方がない。學問的完成を期するものでないから興味中心的にやる。この二つの立場を幼稚園で如何に考慮するかは一應考慮の要がある。この問題に對しては大體としては興味中心主義になる方がよい。小學校の理科教授から選擇して同じ物をえらぶにしても興味を中心に子供に近いものをえらぶ、子供の經驗内に近いものを。そんならば全然學問的見地に注意をおかぬかといふに、先生自身の細かい注意の中におくべきであります。只學問的立場を本來とし、第一義として興味を第二におくことは幼稚園では不適當であります。

次は幼兒に如何なる物を與へるべきか、先生はそれに對して準備を持つて居るか、即ち觀察の材料選擇であります、子供の環境に近く興味に觸れてゆくことを時間的にいへば季節といふことであります。小學校理科でもこれを入れてある。この考へから限定されるものがあります。各幼稚園は其の所在と季節の移り變りを基として材料を配列しなければなりません。個々の幼稚園自身の立案を持たなければなりません。自分の幼稚園を土臺として適當なプログラムを立てる。よその案を其のまゝ持つて來ることは出来ない。

次の問題はどの程度に觀察させるかといふことになる。理科教授では何れがやさしい、六ツかしいから何れの次に來るべきといふことが考へられる問題でありますが、幼稚園ではやさしい、六ツかしいの

程度上の差別は餘りない。自然経験を主體として考へてゆく時は其の事は餘り考へる必要がない。觀察させ方の程度は問題にならぬといへると思ひます。

觀察のさせ方の問題は昨日述べた所でお分りのことと思ひますが、それを實際的な言葉で總括しますと、先づ大體は幼兒と觀察の對象物が交渉して居る關係が持ち度いのであります。純粹理科の觀察は客觀的態度でありますが、幼稚園では兩者の交渉を重んじて行き度いのであります、觀察が主ですから勿論正確を必要としますが、それより大切なのは、生活交渉だと思ふのです。此處から色んな問題が起るのです。一輪の花を觀察するにしても一輪づゝつみとつて分配する仕方は好ましくないのです。植木鉢のまゝ、花壇のまゝに、花に對する親しみを持つてやり度いのです。本當の生きて居る自然から抽象的にならない様に、つとめて具體的狀態でやり度いのです。木の葉を觀察させるに豫め用意してあつた箱の中から先生が分ち與へるのでなく、一緒に庭に出て落葉を拾ひ集めて觀度いものです。子供の生活の中で觀察させ度いのです。或は觀察は後廻しにして、人間的に自然との交渉生活を營ませて、具體の経験中に色・形・全體から部分へと觀察させる。適當に分解させるのであります。幼稚園の觀察のさせ方は理科的でなくといはゞ園藝的であり度い位です。花壇・植物と交渉して居る中に個々についてよく觀てゆくのが園藝家の態度であります。

次に觀察のために各幼稚園が實際何んなに計畫して行くかの中心問題に移ります。各幼稚園で綿密な

觀察の曆を作ることが必要であります。吾々自身が注意するために出来るだけ綿密に作るがよい。抜きさしのならぬいわゆる細目でない。先生の参考のための曆であります。作つたからとて遵奉しなければならぬといふことはないのですから。其の次にはその曆の時間的按配であります。これはまだ研究調査されて居りません。小學校ではちゃんと配當されて居ります。幼稚園でも其の要がないことはない、大いにあります。基礎ある研究はまだ出来て居ませんけれども大體斯んなに見られると思ふ。外國の幼稚園は大體の計畫だけを立てゝおきます。幼稚園が社會的觀察の機會を得るには午後の時間が多くなります。午後の時間は觀察に全部提供せられてもいゝ位かと思ひます。相當に觀察に時間を與へて特に觀察のために計畫した時間を取つた方が適當だと思ひます。新令による觀察は自然界のみに限つて居ない。自然界及び人事界についてなさしむとはつきり書かれてある。それで次は人事界の觀察の問題ですが、材料となるべきものは社會で行はれて居るものならば何でもよい。監獄訪問などはいらないと思ひますが。けれ共何でもよい中に大體分類すれば人事界は家庭、幼稚園、社會になるから何れにも偏しないやうに心掛ける必要がある。吾が國では從來家庭生活中心であつたからこれを幼稚園・社會にまで擴げることが要求されて居ります。殊に私の注意しますことは今日の幼稚園が單純なる個人的生活でなく、社會的生活を十分觀察せしめる要あることです。厚紙細工で何でも出来ます。お座敷でも、お家でも。けれども社會的に興味を向けたい今では、ポストや交番を作ることが望みます。社會的奉仕の概念論を持

ち出す必要はありません。持ち出して子供には受け取れませんが、人事界に勉めて接近せしめるのであります。先生が仲立ちになつて觸れさせるのであります。客觀的に眺めて居る冷淡な態度でなしに、自分達にとつて有り難い。御苦勞様といふ感情的交渉を持たせることが必要であります。これは觀察としては別に言はれて居る事ではありませんが、人形中心保育に他なりません。人形を中心にして感情の交渉を營まさせるのであります。

人事現象にも曆をつくる必要があります。電車・自動車は季節にお構ひなく何時もありますが、年中行事や季節もの、氷屋さん。水まきさんがあるのですから大切です。又、園外に連れ出すことも必要になつて來ます。全體が出るとなると随分困難が起きます。現在未だ連れ出し方の研究が足りません。如何に小分けして行へばよいかは考究を要するものであります。

斯ういふ風にして行つてゆくのであります。以上をまとめますと、觀察といふことは其の目的から言へば特に時間を設け、特別な仕事をすべきものではない。凡ゆる場合に觀察の目的を適應してゆくことが必要であると同時に、其の目的のために特に時間を提供することも大切である。つまり觀察には廣狹二つの場合が考へられるのであります。

第二の保育項目に關する問題は觀察の他は新らしいものではありませんからこれで終つておきまして第三の幼稚園の社會的機能に移ります。

三、幼稚園の社會的機能に關する事項

新幼稚園令の著しい特色の一は社會的職能を發揮した點であります。從來の幼稚園は必ずしもそれから離れたものではありませんが、實際としては矢張り保育所や托兒所と異つて居りました。貴族的ではないまでも有産家庭のものでした。元來幼稚園そのものが左うあるわけではないのですが我國で格別斯様になつたのです。幼稚園といふものが出來た由來は御承知の通りフレーベルの教育的考に發して居ります。斯んなに自發活動をして居るのだから此の時代から教育は始められなければならぬといふ學問的な立場から幼稚園が生まれました。近世に於ては、或は人口問題から或は工場制度から幼兒死亡の高率問題が八釜しくなつて、教育的立場でなく、生活的・實際的・現實的な保育問題が生れて來ました。これが保育所・托兒所であります。兩者は區別がつけました。けれども、誰が考へても分ります様に教育的意味における幼兒教育の心は其の子供が如何なる階級であるかに關らず適用される。凡ゆる保育所・托兒所は幼兒である以上は、教育的に取扱ふべきものであります。當り前のやうであります。つまり幼稚園を必要に應じては所謂細民地區までも持つて行く、生活に忙しい親の居る地區に持つて行くといふ事は、あの子達が不完全な生活をしてゐるのを哀れむためではない。社會的合理性に於て持つて行かすにはゐられぬといふのであります。幼稚園の名によつて社會事業までしたといふのではなく、幼兒が一人

でもそこに居る以上幼児に適した教育をせられる事を要求して居るのであるから、良家の子供から貧しい忙しい家の子供の範圍にまですゝんで行くといふのであります。幼稚園の名によつて社會事業を始めたのではない。要するに幼児の榮養、衣服・睡眠のみが氣になる人は矢張り普通の社會事業家であつて幼児教育者ではないことになります。

其の次に實際的の事として起つて来るのは、幼稚園が社會的になつたために將來において我々の前に来る幼児の中には今まで幼稚園が家庭に向つて要求した事をなし得ない幼児があることがありますが、幼稚園は家庭教育を補ふが故に、家を本體として居るが故に、家に對して我々は色々要求して居るのであります。私の考へとしては幼稚園が家庭的世話をする事はいけなくてむしろ家庭に對して注意をした。家が經濟的に餘裕のある時は幼稚園は家庭に向つて要求し、刺戟するものであると思ひます。幼稚園が社會的の意味に手を擴げて來た場合には、不完全な家庭生活を以て我々の所に來ますから幼稚園の施設は餘程變らざるを得ません。新令は必要によつては保育時間を伸すことが出来る様になつて居ります。母親の都合によつては朝六時から夕方五時までも預らねばならぬ。斯うなつた時には如何に其の子供が生活するかは考へねばならない。或は設備上についても浴場が必要になつたり、食事の備も亦要る。新令によれば必要に應じて三才以下でも收容し得る事になつて居ります。イギリスのデー・ナーセリーでは生後九ヶ月を限度として居りますが、斯んな風にもなれば餘程變つて來ます。滿三才以下の子を預

るとなれば保姆の外に適當なる守りを必要とします。純粹の教育者の他に子供の世話をする者を必要とします。新令の意義における専門家的の考からでは満三才以下の子を入れるには如何なる施設を要するかは細かい考へが必要であります。

それからこれが實現に當りまして吾々自身が左様な家庭に對して十分に了解を要する。同情ではありません。何が故にあの貧しい家・忙しい家・忙しい母・あの細民地區を作つてゐるのであらうかを了解しなければならぬ。教育は其の子供が如何なる社會生活に居るかを問題にしなかつたのでありますが、幼児教育は其の子供の生活に對する十分な理解を要します。これには現代社會組織から來る十分な理由があるのであります。斯う云ふ事を理解すると本當の意味において幼児に對する適當な態度が出てまゐります。家庭教育を補ふとは家庭教育の何處を補ふのか、榮養が足りぬから食事を與へる、遊び場がないから幼稚園の庭で遊ばせるやうなことでせうか。家庭教育を補ふ最も中心的なものは、幼稚園に子を托すやうな家の状態にある子供は遊び場所の問題でなく、子供として最も要求する人間的の交渉に對して飢ゑてゐるのであります。朝まだねむたがる子供を起しては太急ぎで朝の支度をすませ、勤めの出掛けに子供を預けて、その夕方歸りがけに連れ歸るのです。其の時に母親は勞れ切つて居りますから子供に何かを與へ得るよりも自身が他からの慰安を求めて居ります。それですから家庭教育として斯々と教へられないといふ事ではなく、人間的親しみについて飢ゑ切つて居るのです。この點に幼稚園の補ふべきものが向けられるべきであります。幼稚園として幼児の生活の中心に觸れて來た専門家としての保姆のすべき事は、人間的満足に飢ゑて居る子に満足と與ふべきであると思ふのであります。將來の幼稚園は新令によつて全然社會的意義を新たにしたもので、お互、本當に幼稚園が普及し、其の職能を發揮するやうに希望するものであります。(さく子)